

OSSTech 製

OpenLDAP 2.4 パッケージ

インストールガイド v3.0



OSSTech

オープンソース・ソリューション・テクノロジー(株)

作成日: 2010年8月30日

リビジョン: 3.0

## 目次

1. はじめに.....	1
2. Linux 版 OpenLDAP 2.4 パッケージ.....	2
2.1 システム要件.....	2
2.1.1 ソフトウェア要件.....	2
2.1.2 ハードウェア要件.....	2
2.2 パッケージ構成.....	2
2.3 Linux 版パッケージのインストール.....	3
2.3.1 準備.....	3
2.3.2 パッケージのインストール.....	3
2.4 OpenLDAP 2.4 パッケージのアップデート.....	3
3. Solaris 版 OpenLDAP 2.4 パッケージ.....	6
3.1 システム要件.....	6
3.1.1 ソフトウェア要件.....	6
3.1.2 ハードウェア要件.....	6
3.2 パッケージ構成.....	6
3.3 Solaris 版パッケージのインストール.....	7
3.3.1 準備.....	7
3.3.2 パッケージのインストール.....	7
3.3.3 Solaris 10 OS パッチの適用.....	7
3.3.4 RPM 環境のインストール.....	8
3.3.5 パッケージのインストール.....	8
3.3.6 OpenLDAP 2.4 パッケージのアップデート.....	9
4. OpenLDAP 2.4 パッケージの各種コマンド.....	11
4.1 OpenLDAP サーバーの起動・停止.....	11
4.2 起動オプションの設定.....	11
4.2.1 -l オプションで syslog のファシリティを設定したい場合.....	11
4.2.2 -h オプションでサービスの URL を設定したい場合.....	11
5. インストールガイド更新履歴.....	13
5.1 2010/3/9 初版 : OpenLDAP 2.4 インストールガイド v1.0.....	13
5.2 2010/5/7 第2版 : OpenLDAP 2.4 インストールガイド v2.0.....	13
5.3 2010/8/30 第3版 : OpenLDAP 2.4 インストールガイド v3.0.....	13

## 1. はじめに

本ドキュメントは、弊社提供の OpenLDAP パッケージを導入するための手順書です。

OpenLDAP パッケージのインストールの際に、必ず本ドキュメントの内容を確認してから、作業を実施してください。

本ドキュメントに関する記載内容について、疑問点等がある場合には、弊社サポート窓口までお問い合わせください。

## 2. Linux 版 OpenLDAP 2.4 パッケージ

### 2.1 システム要件

#### || 2.1.1 ソフトウェア要件

以下のいずれかの OS 環境が必要です。

- RedHat Enterprise Linux 5 / CentOS 5 (x86, x86-64)

#### || 2.1.2 ハードウェア要件

ソフトウェア要件に記載の OS が動作する以下のハードウェア環境が必要です。

CPU:	Intel Pentium III 1GHz 以上あるいは互換 CPU
メモリ:	512MB 以上 (1GB 以上推奨。LDAP エントリ数等に依存)
ディスク:	ソフトウェア: /opt/osstech                    1GB 以上 データ、ログ: /var/opt/osstech                    1GB 以上(推奨)

### 2.2 パッケージ構成

弊社が提供する Solaris 版 ソフトウェアは以下のパッケージにより構成されています。

- OSSTech ソフトウェア製品基本パッケージ
  - osstech-base
  - osstech-support
  - osstech-daemontools
- OpenLDAP 2.4 パッケージ
  - osstech-openldap
  - osstech-openldap-clients
  - osstech-openldap-servers
  - osstech-openldap-servers-overlays
  - osstech-openldap-servers-perl
  - osstech-openldap2.4-libs
  - osstech-db4.8
  - osstech-db4.8-utils
  - osstech-openldap-devel
  - osstech-db4.8-devel

devel ディレクトリのパッケージは、OpenLDAP サーバーの運用には不要なため、必ずしもインストールする必要はありません。

## 2.3 Linux 版パッケージのインストール

### 2.3.1 準備

パッケージのインストールは、root ユーザーのみに許可されていますので、最初に su コマンドで root ユーザーになります。

```
$ su -  
Password: root のパスワードを入力 (画面には表示されません)
```

次に弊社から提供されたパッケージ一式をインストール先ホストの任意のディレクトリに展開します。下記の例では/srv/osstech/software/RPMS に展開したことを前提として記述します。

### 2.3.2 パッケージのインストール

弊社提供の OpenLDAP 2.4 パッケージは、/opt/osstech ディレクトリに新規インストールされます。

“/srv/osstech/software/RPMS”に弊社提供のパッケージ一式がコピーしてあることを確認します。

```
# cd /srv/osstech/software/RPMS  
# ls  
base openldap
```

まず最初に、base ディレクトリにある osstech-base、osstech-support、osstech-daemontools パッケージをインストールします。既にこれらのパッケージがインストールされている場合は、この手順は不要です。

```
# rpm -ihv base/*.rpm
```

続いて、OpenLDAP 2.4 パッケージ一式をインストールします。

```
# rpm -ihv openldap/*.rpm
```

以上で、OpenLDAP 2.4 パッケージのインストールは完了です。

## 2.4 OpenLDAP 2.4 パッケージのアップデート

OpenLDAP 2.4 パッケージのアップデートは次の手順で行ってください。

最初に su コマンドで root ユーザーになります。

```
$ su -  
Password: root のパスワードを入力 (画面には表示されません)
```

パッケージのアップデート前に、OpenLDAP の各種設定ファイルをバックアップしておきます。

バックアップ対象ディレクトリ	ディレクトリに含まれるデータ
/opt/osstech/etc/openldap	OpenLDAP の設定ファイル、スキーマファイルなど

OpenLDAP のサービスを停止します。

```
# /sbin/service osstech-ldap stop
```

登録されている LDAP エントリの LDIF 形式のバックアップを取得しておきます。

```
# /opt/osstech/sbin/slapcat > ldap-backup.ldif
```

次に弊社から提供されたパッケージをインストール先ホストの任意のディレクトリに展開します。下記の例では/srv/osstech/software/RPMS に展開したことを前提として記述します。

/srv/osstech/software/RPMS に弊社提供の OpenLDAP 2.4 パッケージがあることを確認します。

```
# cd /srv/osstech/software/RPMS  
# ls base  
osstech-base-3.0-51.el5.noarch.rpm  
osstech-daemontools-0.76-36.el5.i386.rpm  
...  
# ls openldap  
osstech-openldap-2.4.23-31.el5.i386.rpm  
osstech-openldap-clients-2.4.23-31.el5.i386.rpm  
osstech-openldap-servers-2.4.23-31.el5.i386.rpm  
osstech-openldap-servers-overlays-2.4.23-31.el5.i386.rpm  
...
```

最初に base ディレクトリに含まれるパッケージのアップデートを rpm コマンドで行います。

```
# /bin/rpm -Uhv base/*.rpm
```

既に最新のパッケージがインストール済みの場合、次のエラーが表示されます。この場合はインストール済みのパッケージをアップデートする必要はありませんので、アップデート不要なパッケージを、ディレクトリから除いておき、再度、アップデートを試みます。

```
# /bin/rpm -Uhv base/*.rpm
準備中... ##### [100%]
    パッケージ osstech-base-3.0-51.el5 は既にインストールされています。
    パッケージ osstech-support-3.0-51.el5 は既にインストールされています。
```

上記の例の場合、osstech-base パッケージと osstech-support パッケージのアップデートが不要なことを表しています。

続いて、rpm コマンドで弊社提供の OpenLDAP 2.4 パッケージ一式をインストールします。

```
# /bin/rpm -Uhv openldap/*.rpm
```

また、システムに開発用の devel パッケージもインストール済みの場合は、次のように devel パッケージも一緒に指定して、OpenLDAP 2.4 パッケージをアップデートします。

```
# /bin/rpm -Uhv openldap/*.rpm openldap/devel/*.rpm
```

以上でパッケージのアップデートは完了です。

## 3. Solaris 版 OpenLDAP 2.4 パッケージ

### 3.1 システム要件

#### || 3.1.1 ソフトウェア要件

以下のいずれかの OS 環境が必要です。

- Solaris 10 (SPARC)
- Solaris 10 (x86)

#### || 3.1.2 ハードウェア要件

ソフトウェア要件に記載の OS が動作する以下のハードウェア環境が必要です。

CPU:	Intel Pentium III 1GHz 以上あるいは互換 CPU
	Sun UltraSPARC II 1GHz 以上あるいは互換 CPU
メモリ:	512MB 以上 (1GB 以上推奨。登録エントリ数等に依存)
ディスク:	ソフトウェア: /opt/osstech            1GB 以上
	データ、ログ: /var/opt/osstech        1GB 以上(推奨)

### 3.2 パッケージ構成

弊社が提供する Solaris 版 ソフトウェアは以下のパッケージにより構成されています。

- OSSTech ソフトウェア製品基本パッケージ
  - osstech-base
  - osstech-support
  - osstech-rpm
  - osstech-rpm-build
  - osstech-rpm-devel
  - osstech-rpm-libs
  - osstech-rpm-python
  - osstech-daemontools
  - osstech-logrotate
  - osstech-cronie
- OpenLDAP 2.4 パッケージ
  - osstech-openldap
  - osstech-openldap-clients

- osstech-openldap-servers
- osstech-openldap-servers-overlays
- osstech-openldap-servers-perl
- osstech-openldap2.4-libs
- osstech-db4.8
- osstech-db4.8-utils
- osstech-openldap-devel
- osstech-db4.8-devel

devel ディレクトリのパッケージは、OpenLDAP サーバーの運用には不要なため、必ずしもインストールする必要はありません。

### 3.3 Solaris 版パッケージのインストール

#### || 3.3.1 準備

パッケージのインストールは、root ユーザーのみに許可されていますので、最初に su コマンドで root ユーザーになります。

```
$ su -  
Password: root のパスワードを入力 (画面には表示されません)
```

次に弊社から提供されたパッケージ一式をインストール先ホストの任意のディレクトリに展開します。下記の例では/srv/osstech/software/RPMS に展開したことを前提として記述します。

#### || 3.3.2 パッケージのインストール

弊社提供の OpenLDAP 2.4 パッケージは、/opt/osstech ディレクトリに新規インストールされます。

"/srv/osstech/software/RPMS/"に弊社提供のパッケージ一式がコピーしてあることを確認します。

```
# cd /srv/osstech/software/RPMS  
# ls  
base bootstrap openldap
```

#### || 3.3.3 Solaris 10 OS パッチの適用

showrev コマンドで OS パッチ 121606-02 以降 (SPARC の場合)、または 121607-02 以降 (x86 の場

合) がシステムに適用されていることを確認します。Solaris 10 Update 4 (8/07)以降には標準で適用済みであるため、不要です。

#### パッチの確認: SPARC の場合

```
# showrev -p | egrep 121606
```

```
Patch: 121606-02 Obsoletes: Requires: Incompatibles: Packages: SUNWPython-share,  
SUNWPython, SUNWPython-devel
```

#### パッチの確認: x86 の場合

```
# showrev -p | egrep 121607
```

```
Patch: 121607-02 Obsoletes: Requires: Incompatibles: Packages: SUNWPython-share,  
SUNWPython, SUNWPython-devel
```

2008年11月現在、パッチの最新版は以下のURLから取得することが可能です。このパッチのダウンロードは、Sun Service Plan の契約ユーザーのみに限定されています。

- SPARC 用
  - 121606-04: GNOME 2.6.0: Python patch  
<http://sunsolve.sun.com/search/document.do?assetkey=1-21-121606-04-1>
- x86 用
  - 121607-04: GNOME 2.6.0: Python patch  
<http://sunsolve.sun.com/search/document.do?assetkey=1-21-121607-04-1>

ダウンロードしたパッチは次の手順で適用します。

```
# unzip -q 121607-04.zip  
# /usr/sbin/patchadd 121607-04
```

### || 3.3.4 RPM 環境のインストール

弊社提供の Solaris 版ソフトウェアパッケージは RPM での管理となります。まず RPM 環境をインストールします。

```
# cd /srv/osstech/software/RPMS  
# ./bootstrap/osstech-bootstrap.ksh ./bootstrap
```

### || 3.3.5 パッケージのインストール

インストールされた rpm コマンドを使用して、Samba 並びにその他必要なパッケージをインストールします。

```
# /opt/osstech/bin/rpm -iv base/*.rpm  
# /opt/osstech/bin/rpm -iv openldap/*.rpm
```

以上で OpenLDAP 2.4 パッケージのインストールは完了です。

### || 3.3.6 OpenLDAP 2.4 パッケージのアップデート

Solaris 版 OpenLDAP 2.4 パッケージのアップデートは次の手順で行ってください。

最初に su コマンドで root ユーザーになります。

```
$ su -  
Password: root のパスワードを入力 (画面には表示されません)
```

パッケージのアップデート前に、OpenLDAP の各種設定ファイルをバックアップしておきます。

バックアップ対象ディレクトリ	ディレクトリに含まれるデータ
/opt/osstech/etc/openldap	OpenLDAP の設定ファイル、スキーマファイルなど

OpenLDAP のサービスを停止します。

```
# /etc/init.d/osstech-ldap stop
```

登録されている LDAP エントリの LDIF 形式のバックアップを取得しておきます。

```
# /opt/osstech/sbin/slapcat > ldap-backup.ldif
```

次に弊社から提供されたパッケージをインストール先ホストの任意のディレクトリに展開します。下記の例では/srv/osstech/software/RPMS に展開したことを前提として記述します。

/srv/osstech/software/RPMS に弊社提供の OpenLDAP 2.4 パッケージがあることを確認します。

```
# cd /srv/osstech/software/RPMS  
# ls bootstrap  
osstech-base-3.0-51.sol10.noarch.rpm  
osstech-base-os-3.0-51.sol10.i386.rpm  
...  
# ls base  
osstech-cronie-1.2-1.6.sol10.i386.rpm  
osstech-daemontools-0.76-36.sol10.i386.rpm  
osstech-libtool-ltdl-2.2.6-4.sol10.i386.rpm  
osstech-logrotate-3.7.7-1.3.sol10.i386.rpm  
  
# ls openldap
```

```
osstech-openldap-2.4.23-31.el5.i386.rpm
osstech-openldap-clients-2.4.23-31.el5.i386.rpm
osstech-openldap-servers-2.4.23-31.el5.i386.rpm
osstech-openldap-servers-overlays-2.4.23-31.el5.i386.rpm
...
```

最初に bootstrap ディレクトリに含まれるパッケージ式のアップデートを rpm コマンドで行います。

```
# /opt/osstech/bin/rpm -Uhv bootstrap/*.rpm
```

既に最新のパッケージがインストール済みの場合、次のエラーが表示されます。この場合はインストール済みのパッケージをアップデートする必要はありませんので、アップデート不要なパッケージを、ディレクトリから除いておき、再度、アップデートを試みます。

```
# /opt/osstech/bin/rpm -Uhv bootstrap/*.rpm
準備中... ##### [100%]
    パッケージ osstech-base-3.0-51.el5 は既にインストールされています。
    パッケージ osstech-support-3.0-51.el5 は既にインストールされています。
```

上記の例の場合、osstech-base パッケージと osstech-support パッケージのアップデートが不要ことを表しています。

続いて、base ディレクトリのパッケージのアップデートを行います。

```
# /opt/osstech/bin/rpm -Uhv base/*.rpm
```

続いて、rpm コマンドで弊社提供の OpenLDAP 2.4 パッケージ式をインストールします。

```
# /opt/osstech/bin/rpm -Uhv openldap/*.rpm
```

また、システムに開発用の devel パッケージもインストール済みの場合は、次のように devel パッケージも一緒に指定して、OpenLDAP 2.4 パッケージをアップデートします。

```
# /opt/osstech/bin/rpm -Uhv openldap/*.rpm openldap/devel/*.rpm
```

以上でパッケージのアップデートは完了です。

## 4. OpenLDAP 2.4 パッケージの各種コマンド

OSSTech 製 OpenLDAP2.4 パッケージは、`/opt/osstech` ディレクトリ配下にインストールされます。

- LDAP デーモン(`/opt/osstech/sbin/slapd`)
- LDAP ユーティリティ(`/opt/osstech/bin/ldapsearch`, `/opt/osstech/bin/ldapadd` など)
- 管理者用 LDAP ユーティリティ(`/opt/osstech/sbin/slapadd`, `/opt/osstech/sbin/slapcat` など)
- 起動スクリプト (`/etc/init.d/osstech-ldap`)
- 設定ファイル (`/opt/osstech/etc/openldap/slapd.conf`, `/opt/osstech/etc/openldap/ldap.conf` など)
- schema ファイル (`/opt/osstech/etc/openldap/schema/`ディレクトリ)
- LDAP データ格納ディレクトリ (`/opt/osstech/var/lib/ldap`)
- BDB ユーティリティ (`/opt/osstech/sbin/slapd_db_recover` など)

### 4.1 OpenLDAP サーバーの起動・停止

弊社提供の OpenLDAP 2.4 サーバーを起動するときは、次のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/osstech-ldap start
```

弊社提供の OpenLDAP 2.4 サーバーを停止するときは、次のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/osstech-ldap stop
```

### 4.2 起動オプションの設定

`slapd` を起動する際に、オプションを指定したい場合は、次の各設定を行った後に、`osstech-ldap` を再起動してください。

#### || 4.2.1 -l オプションで syslog のファシリティを設定したい場合

`syslog` のファシリティを設定したい場合は、`/opt/osstech/var/lib/sv/slapd/env/SYSLOGFACILITY` ファイルに `-l` オプションに渡したい文字列を設定します。

```
# echo LOCAL5 > /opt/osstech/var/lib/sv/slapd/env/SYSLOGFACILITY
```

#### || 4.2.2 -h オプションでサービスの URL を設定したい場合

サービスの URL を設定したい場合は、`/opt/osstech/var/lib/sv/slapd/env/SERVICES` ファイルに `-h` オ

ブションに渡したい文字列を設定します。

```
# echo "ldap://127.0.0.1/ ldaps://127.0.0.1/" >
/opt/osstech/var/lib/sv/slapd/env/SERVICES
```

ただし、SERVICES ファイルに何も設定されていないデフォルト状態の場合、LDAP サーバーのサービス URL として、次の URL が設定されます。

- TLS が有効な場合
  - "ldap:/// ldaps://"
- TLS が無効な場合
  - "ldap://"

## 5. インストールガイド更新履歴

### 5.1 2010/3/9 初版 : OpenLDAP 2.4 インストールガイド v1.0

- 初版

### 5.2 2010/5/7 第2版 : OpenLDAP 2.4 インストールガイド v2.0

- slapd 起動時のオプションの設定方法について記載

### 5.3 2010/8/30 第3版 : OpenLDAP 2.4 インストールガイド v3.0

- Solaris 版パッケージのインストール手順について記載
- パッケージのアップデート方法について記載